

第12回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和6年3月12日（火） 14時16分

2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 山本 恭子
委 員 鈴木 友美
委 員 吉良 佳晃

4 会議に出席した職員

学校教育部長 西羅 忠和
こども未来部長 稲山 悟
社会教育部長 小林 康弘
学校教育次長 岸田 幸雄
こども未来次長兼保育教育課長 西嶋 睦美
教育総務課長 酒井 寛興
学校教育課長 浅田 智広
学 事 課 長 山本 毅
教育研究所長 足立 圭吾
東部学校給食センター所長 石田 哲也
西部学校給食センター所長 齋藤 昭
子育て企画課長 竹見 朋子
社会教育課長 谷掛 昭二
文化財課長 村上 由樹
中央図書館長 小島 理三
田園交響ホール館長 酒井 直隆
総 務 課 長 河南 剛
中央公民館長 藤井 正作
教育総務課課長補佐 山内 俊秀
教育総務課主査 北尾 真理奈

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時16分

7 会 期

（自）令和6年3月12日 （至）令和5年3月12日 1日間

8 会議録署名委員名簿

西田正志委員

9 閉 会

16時45分

丹後教育長	日程第 1、令和 5 年度第 11 回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第 2、会議録署名委員は、1 番西田正志委員を指名する。
丹後教育長	日程第 3、会期は令和 6 年 3 月 12 日、本日 1 日間とする。
丹後教育長	日程第 4、議案に移る。議案第 29 号「丹波篠山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について」教育総務課に説明を求める。
酒井課長	《議案書に基づき説明》
丹後教育長	質疑はないようですので、議案第 29 号「丹波篠山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 29 号「丹波篠山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	議案第 30 号「令和 6 年度選定 小学校 教師用教科書及び指導書、指導用教材購入契約について」学校教育課に説明を求める。
浅田課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	前回の予算はいくらだったのか。
浅田課長	前回の予算が分かる資料を持ち合わせていないが、仮にデジタル教材がなければ 1,500 万円程度であったと想定される。
西田委員	議会に提案する際は、デジタル教科書は教科書として認知されたものであることを十分に説明するようお願いする。
浅田課長	法改正により、使用する教材と決められた旨を説明していく。
丹後教育長	議案第 30 号「令和 6 年度選定 小学校 教師用教科書及び指導書、指導用教材購入契約について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 30 号「令和 6 年度選定 小学校 教師用教科書及び指導書、指導用教材購入契約について」は原案どおり可決する。

丹後教育長	議案第 31 号「丹波篠山市適応指導教室ゆめハウス設置要綱の一部を改正する要綱の制定について」学校教育課に説明を求める。
浅田課長	《議案書に基づき説明》
丹後教育長	これまで適応指導教室との言葉を使ってきたが、不登校の原因や対応方法は様々であるのに対し、学校生活に適応させることのみを指導すると捉えられかねない表現であった。そうではなく、個人の学びや育ちをサポートするとの思いから、名称を改めることが適切であると考え、提案している。
丹後教育長	それでは、採決に移る。質疑はないようですので、議案第 31 号「丹波篠山市適応指導教室ゆめハウス設置要綱の一部を改正する要綱の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 31 号「丹波篠山市適応指導教室ゆめハウス設置要綱の一部を改正する要綱の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	議案第 32 号「丹波篠山市子育て支援アドバイザー設置要綱の制定について」子育て企画課に説明を求める。
竹見課長	《議案書に基づき説明》
山本委員	子育ての悩みを抱える保護者は市内でも多く、ありがたい取組である。要綱第 5 条で、子育て施策に関することや団体・個人が行う子育て支援に関する取組等に関する事等について、アドバイザーは助言等を行うと書かれているが、子育て支援団体と真ん中でつながりをもっていくとのことによいか。市内にも多くの子育て支援団体がある中、集約し、皆で協力していくことが大事であると思うが、どのようにつながっていくのか。 また、市内の子育て支援団体へどのようにアドバイザーの存在を周知していくのか。連携をとるための方策について、具体的に教示願う。
竹見課長	今年度、子育て支援団体の情報交換交流会を実施したが、その時は、市が把握している団体のみへの声掛けで集まっていた。今後はその輪を広げていく必要があると考えており、手挙げ方式等も検討していく。中川先生にはアドバイザーとしてその中に入ってもらい、色々なアドバイスをいただきたいと考えている。 アドバイザーの周知については、4 月からの委嘱を記者発表するとともに、市広報やホームページ等を通じ周知していく。子育て施策については、4 月からは公式インスタグラムでも発信していく予定としており、その活用も含め、様々な機会を通じて発信していきたい。

山本委員	色々な発信方法を考えていただいているが、具体的にアドバイザーの役割を周知しなければ、単に助言する存在に留まってしまわないか。連携の核として、団体をつなげていくことを伝えていただきたい。
鈴木委員	今年度行った情報交換交流会について、来年度以降、年に何回程度、実施するのか。 また、公式インスタグラム開設について、子育て関係の情報がアップされるのか。
竹見課長	子育て支援団体の情報交換交流について、アドバイザーを入れての活動としては、年3～4回程度を予定している。 公式インスタグラムについては、市の情報政策担当と協議しており、子育て支援の情報を一括で配信していきたいと考えており、子育て企画課の情報だけではなく、健康課からの情報も配信していけるように調整中である。
山本委員	新聞記事で読んだが、神戸市ではAIが答えるシステムを取り入れたようである。そこまでは難しいかもしれないが、項目ごとに見やすいように作っていただきたい。
竹見課長	たくさん情報発信をされている自治体等も参考に、発信力の高いものにしていきたい。
稲山部長	議決後、中川さんへの委嘱状交付の際には市長も同席する。多様な価値観がある中でも同じ方向に向かっていくのが重要と考えている。今後、教育委員と意見交換等をする機会も設けていきたい。宝塚市で取り組まれてきた実績を丹波篠山市でも参考にさせていただきたいと思っている。
丹後教育長	議案第32号「丹波篠山市子育て支援アドバイザー設置要綱の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第32号「丹波篠山市子育て支援アドバイザー設置要綱の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	議案第33号「新生児誕生祝品『丹波篠山 森からのおくりもの』事業実施要綱の制定について」子育て企画課に説明を求める。
竹見課長	《議案書に基づき説明》
鈴木委員	令和6年8月1日から始まるとのことであるが、次年度以降も続けていくのか。
竹見課長	予算確保ができれば、令和7年度以降も続けていきたい。
鈴木委員	事業が続くのであれば、2子目以降や双子が生まれた時、同じ積み木セットではなく、例えば3種類程の選択肢の中から選べる等を検討いただくと嬉しい。
竹見課長	アンケート等を予定しており、保護者の声も聞きながら、検討していく。

丹後教育長	議案第 33 号「新生児誕生祝品『丹波篠山 森からのおくりもの』事業実施要綱の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 33 号「新生児誕生祝品『丹波篠山 森からのおくりもの』事業実施要綱の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	議案第 34 号「丹波篠山市保育士資格等取得支援助成金交付要綱の制定について」保育教育課に説明を求める。
西嶋次長	《議案書に基づき説明》
鈴木委員	令和 6 年 1 月に保育士試験に合格した 1 名が助成金を活用するとのことであるが、助成制度が知れ渡っていなかったということか。
西嶋次長	助成を受けたいと申し出た 2 名のうち 1 名が合格したため、結果として 1 名のみが助成を受けた。なお、周知については、市内保育施設で働く資格を持たない会計年度任用職員全員へ行った。
西田委員	要綱からは不公平が生じることなく助成できると思う。チラシ案では、現在働いていない人を対象にしているように見受けるが、現在働いている人も対象となることが分かるような文面が必要ではないか。
稲山部長	現在、働いている人も対象であり申請できることの方角するようにした上で、漏れ落ちのないよう幅広く広報活動していく。
西田委員	チラシを配るなら、誰が対象なのか、誤解を生まないように留意されたい。
丹後教育長	議案第 34 号「丹波篠山市保育士資格等取得支援助成金交付要綱の制定について」採決をする。異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 34 号「丹波篠山市保育士資格等取得支援助成金交付要綱の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	日程第 5、協議事項に移る。協議第 6 号「『令和 6 年度丹波篠山の教育』概要版について」教育総務課に説明を求める。
酒井課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	次回以降に内容を協議できる時間はあるのか。
山内課長補佐	4/21 配付の市広報に挟み込む予定であり、本日、項目等を決定いただきたい。文案については、事前に見てもらえるように取り組む。
西田委員	能登半島地震が起こった中、防災に関する項目の記載がないのはどうか。多くの市民の関心事項であり、記載すべきと考える。

山内課長補佐 丹後教育長	3-1 (3) 防災教育防災体制の充実を項目追加し、加筆する。 協議第6号「『令和6年度丹波篠山の教育』概要版について」はここまでとする。
丹後教育長	日程第6、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課に報告を求める。
山内課長補佐	《議案書に基づき報告》
山本委員	八上地区自治会長会及び同窓会から寄附のあった金屏風は、どのような行事で使っていくのか。
山内課長補佐	150周年記念事業の際にご寄附いただき、その記念式典でも活用したと聞いている。今後、入学式等の行事で活用していくと伺っている。
西田委員	多くの学校で入学式や卒業式に金屏風を出している。持っていない学校は、都度、借用しているとも聞くが、傷つくと大変なので気を遣っているようである。そうした状況もあり、ご寄附があったのではないかと思う。
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」教育総務課に報告を求める。
山内課長補佐	《議案書に基づき報告》
吉良委員 山内課長補佐	「TOSS 春の教師力UP フェス 丹波篠山会場」の内容を教示願う。 学校の先生によるグループで、スキルアップ、情報共有を目的に、TOSSという授業の進め方等の勉強会を開催するものである。
丹後教育長	報告3「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課に報告を求める。
浅田課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	不登校児童生徒数について、令和4年度の集計を見ると、小学校は全国平均程度であるが、中学校は非常に多い。不登校支援員の配置等、不登校対策を講じているが、ゆめハウスの取組や訪問、指導員との懇談等の機会をつくっていただければありがたい。
浅田課長	今年度の取組や来年度の方向性については、今後、機会を設けて報告させていただく。
丹後教育長	ご指摘のように、不登校については国全体で増えているが、特に中学生の割合については、全国平均、県平均よりも高くなっており、非常に心配している。不登校については、本当に多様な理由があるとともに、見守りやアドバイス等、時期に応じた丁寧な対応が必要である。そうした中、不登校支援

山本委員	<p>員の配置等も含め、その子どもや保護者と繋がっていくことも大事にしながら、子どもたちの居場所を第1に考え、取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>保護者もしんどい気持ちになる問題である。そうした子どもたちが、充実した一日を過ごせるように、場合によっては、フリースクールにつなげていくことやスクールソーシャルワーカーとの連携に取り組まれない。</p>
丹後教育長	<p>報告4「フリースクール等民間施設支援モデル事業について」学校教育課に報告を求める。</p>
浅田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員 浅田課長	<p>1施設あたりの補助金50万円については、一回だけの補助か。</p> <p>現段階ではモデル事業であり、今後の検証によっては金額等の変更も考えられるが、基本的には年度毎に上限50万円で継続する制度設計で考えている。</p>
西田委員 浅田課長	<p>対象施設は市内にいくつあるのか。</p> <p>現時点においては一つである。</p>
丹後教育長	<p>報告5「令和5年度2、3月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課に報告を求める。</p>
浅田課長・足立所長 長・石田所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員 足立所長 西田委員	<p>全国学力学習状況調査の実施時期は、</p> <p>4月18日（木）である。</p> <p>リーフレットにある4つの力については、いつから掲載されるようになったのか。</p>
足立所長 西田委員	<p>令和元年、前回のリーフレットでも掲載している。</p> <p>学校給食における窒息事故はショッキングなことであったが、うずらの卵の給食提供については、今後はどのように対応していくのか。</p>
石田所長 西田委員	<p>よく噛む、口に入れすぎない等の注意喚起していく。</p> <p>小学校1年生前後は前歯がちょうど生え変わる時期であり、さらに余り好きではない子が飲み込んで味わわずに食べる中で起こった事故ではないかと推測する報道があった。多くの子どもが噛んで食べているが、嫌いな子の特性も把握して注意喚起していく必要があると思う。</p> <p>以前に西岡先生の講演で、日本スポーツ振興センターの死亡事項の集計をフィードバックしてはどうかとの提案があったが、過去、スポーツ振興センターの調べによると、こういった食べ物を食べて、窒息した事案は7件あった。新たに起こったのではなく、過去にもあったのに、教育委員会や学校現</p>

山本委員	<p>場にフィードバックされてないことも、事故の誘因になったと思う。西岡先生に尋ねてもらえば、過去の事例から学ぶことがあると思う。世間では偶発的な事故として取り上げられているが、実はそうではないことを事務局でも共有していただきたい。</p> <p>いじめアンケートについては、本当に分かりやすく、緻密に分析していただいている。スクールカウンセラーの相談件数も上がっているように見え、学校の先生とカウンセラーとの連携もうまくいっていると感じる。今後も、カウンセラーや学校外の相談機関とも緻密に連携していただきたい。</p> <p>また、中学生になって親に相談する件数が増えていると見受けるが、本来、親とは最も距離ができる時期である中、親に相談するということは、親と学校との連携にもつながってよいと思う。逆に問題行動においては、自分の子どもは悪くないといったように、親がどうしても子どもをかばってしまいがちなこともあると思うので、先生にあっては、より保護者とのコミュニケーションをとっていただきたいと感じた。</p>
浅田課長	<p>スクールカウンセラーについては、以前は子どもたちがスクールカウンセラーに相談すること自体が考えにくい時代であったが、今は定期的に学校に来られることもあり、子どもたちが相談する一つの選択肢となってきており、それが数字としても増えてきていると思っている。</p> <p>保護者との連携については、本当に大切なことであり、ときに意見が食い違うこともあるが、きちんと向き合う中で分かり合っていくように、引き続き保護者との信頼関係をつないでいくことに力を入れていきたい。</p>
丹後教育長	<p>危機管理について、教育委員会としては、危ないものは全て遠ざけるということではなく、これから生きていく上で必要な力をつけることも大事であると思っている。改めて、危機管理意識を持つために、専門家の話を聞く機会を設けること等を実施していきたい。合わせて、現場の声も十分に聞きながら対応を考えていきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告6「丹波篠山市立城東保育園・かやのみ幼稚園あり方検討委員会の進捗状況について」子育て企画課に報告を求める。</p>
竹見課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告7「丹波篠山市立今田幼稚園・今田保育園在り方検討委員会の進捗状況について」子育て企画課に報告を求める。</p>
竹見課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告8「令和5年度3月幼稚園・こども園長会について」保育教育課に報告を求める。</p>

西嶋次長	《議案書に基づき報告》
山本委員	預かり保育の利用予定者数について、こどものおしろは4歳児が9名、5歳児が5名の14名に留まっている。本当は幼稚園に通わせたいが、こどものおしろの開園時間が17時までであるため、通わすことができないとの声を多く聞く。難しいとは思いますが、今後、検討いただきたい。
稲山部長	園長会の閉会の挨拶で、篠山・たまみず・岡野幼稚園区における保育教育の在り方について、こどものおしろ開設から3年が経過する中、開設時間についても色々ご意見が出ており、再検討していく旨を各園長に伝えた。どのようなかたちで検討していくかは決まっていないが、今の状態のままで良いとは考えていないので、園長、保護者にも参加いただく検討の場を設けていくので、協力をお願いしたところである。当然、私立園を含めた協議となるのでハードルは高く、検討に一年程度は要すると思うが、できるところから取り組んでいかなければならないと思っている。こどものおしろ開設までの経過や私立園と調整もあり、来年から直ちに開設時間を延長できるかは分からないが、早目に検討に入り、改善できるところは改善していきたい。
西田委員	幼稚園の合同学級については、小学校の複式学級の基準、隣り合うクラスの合計人数が8名未満に準ずる予定と聞いたと記憶しているが、たまみず幼稚園は合計13人で1クラスになっているが、基準はあるのか。
西嶋次長	大山幼稚園は8人の基準に準じて合同学級を予定しているが、たまみず幼稚園は5歳児が1名であり、1名では集団として生活が成り立たないことから4歳児との合同学級を予定している。
西田委員	これまでにそのような基準についての説明があったのか。
西嶋次長	篠山幼稚園においては、2年前に一方のクラスが1名になった時に今回と同様に合同学級にした経緯があるが、説明はできていなかったと思う。
西田委員	たまみず幼稚園は別にして、他の地域からの入園がほとんどない大山幼稚園や西紀きた幼稚園で同じようなことが起こった際には、幼稚園では合同学級となるが、小学校1年生にあがれば解消することとなるのか。基準が違えば、そうしたケースが起こるのではないかと危惧する。小学校の場合、1学年で8名を超える場合は、隣の学年が1名であっても単独クラスになるのではないのか。
浅田課長	そのとおりである。
西田委員	小学校の複式基準に準ずると聞いていたが、今回のような特例のパターンがあるのであれば、起こる可能性を想定した上で、保護者等に説明する必要があると考える。
丹後教育長	今のご意見も踏まえ、保護者等には丁寧に説明をしていきたい。
西田委員	今の意見を踏まえてではなく、事務局としては想定内のものとして説明できないといけない。これから基準を変えられないと思うので、保護者からの指摘で、今のような対応にならぬようにされたい。
稲山部長	幼稚園の学級編制基準については、非常に曖昧であると思っている。これ

	<p>までから、都度、基準を変えていることを確認したところであり、誤解を生じない基準が必要であると考え。ただ、来年度については、今の対応でいかざるを得ないと思うので、今後、こういったケースが想定されるのかを考えていきたい。小学校への接続が最も大切であること、かつ保育士不足の現状も踏まえながら、基準、もしくは基準のようなものを、次回の教育委員会時に提案させていただければと思っている。各市町によっては基準をつくっているところもあるが、基準をつくることによって逆にハードルが高くなり、身動きとれないこともあるように思うので、本市にあったものを検討していきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告 9「第 44 回丹波篠山 ABC マラソンの結果について」社会教育課に報告を求める。</p>
谷掛課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>大会終了後に、参加者等がアップされている YouTube を見たが、ほとんどの方が好意的な感想であった。振る舞いを目当てに来ているとの声もあり、参加者数は別にしても、以前の良い取組が復活しており、嬉しく思った。三菱自動車から電気自動車 8 台を提供いただき、そのうちの 2 台で本部周辺の電源を賄ったと聞いたが、どうか。</p>
谷掛課長	<p>そのとおり、2 台を本部周辺の電源に使わせていただいた。</p>
西田委員	<p>電源の確保には苦労した記憶もある中、新しい取組に嬉しく思う。</p>
小林部長	<p>今回の取組については、本市出身の方にお声かけいただき、実現した。来年度以降も続けたいとの意向も持っていており、調整していきたいと思っている。</p>
山本委員	<p>今年度は、本格的なおもてなしも復活し、本当に大盛況であったと思う。ランナーの一人と話したところ、沖縄から来たと言われたが、関西以外の参加者等のデータがあれば教示願う。また、全国各地からの参加について、どのような情報発信をされたのか。</p>
谷掛課長	<p>参加者データは持ち合わせていないので、後刻提出する（別添参照）。情報発信については、お城マラソンへの登録や朝日放送の報道番組で告知したこと等により、全国からの参加につながったと思っている。</p>
山本委員	<p>マラソンを通じて、丹波篠山市の認知度が高くなったら良いと思う。</p> <p>今年から、インターネットでゼッケン留めを購入できるようになったが、どの程度の実績があったのか。</p>
谷掛課長	<p>後刻報告する（3 月末まで購入可であり、現時点では未集計）。</p>
吉良委員	<p>参加者からは、すごく走りやすかった、運営がスムーズでよかった等の感想を多く聞いた。</p> <p>制限時間がギリギリの完走者もあったが、制限時間の見直しや仮装の制限等は検討されているのか。</p>

谷掛課長	<p>仮装の制限等は特はない。制限時間の延長については、次回大会に向けて警察等と調整中である。</p>
吉良委員	<p>マラソンを楽しみたい方にとっては、制限時間の厳しい丹波篠山 ABC マラソンが検討に上がらないと聞くので、検討いただいていることはありがたく思う。</p>
丹後教育長	<p>報告 10「教育長報告」について報告する。</p> <p>前回の定例教育委員会以降のスケジュールについては 37～38 頁に記載している。3/1 に小学生の登校の見守りと記載しているのは、現在、全国的にも同様であるが、本市でも 4km 未満を基準に徒歩通学としている中、体感しようと宇土一城南小学校間の約 3.7km を通学児童たちと一緒に歩いてきた。7 時に出発して 8 時前に小学校に着いたが、その間 1 時間弱、子どもたちは元気に、保護者の方や地域の方に見守られながら通学していた。子どもたちに聞くと、通学はそれほど苦には思っていないとのことであったが、夏の暑い時期や大雪の時は大変と言っていた。近年の猛暑もあり、4km の妥当性については、今後、検討していきたいと思っている。</p> <p>次に、3 月の校長会では「人口減少社会の教育」という三重大学の教授の著書を紹介した。「村を捨てる学力」から「村を育てる学力」へということで、全国的な人口減少社会にあっては、子どもの人数で学校の廃校や統合を決める、複式学級やクラス替えができなくなったら困る等の基準をこれまでのように使用するのではなく、人口減少と学校減少が互いに原因となり結果となる地域消滅の悪循環を断たなければならないと言われている。また、優れた人材を地域に残す、あるいは呼び戻す教育へ転換することが必要、人口減少を機として、人々の幸せを実現する国（教育）へと転換しなければならないと言われており、私も共感するところである。教育を単に人数だけで見るとはではなく、質を重視する教育に転換する必要があると思っており、少人数を生かした教育も大事であると思っている。</p> <p>また、小学校（学校）は小学生（子ども）だけのものではないとされており、学校を媒介として、まち全体にコミュニティが広がる。学校は地域コミュニティを結びつける機能があって、子どもが減ったからといって廃校にするのは早計だ。少子化＝統廃合というのは違うのではないか。学校には大人同士を結びつける働きもある。学校が消えていくことが地域の消滅を加速しているのであり、逆に言えば、学校を存続させることが地域を維持していくのに必要な条件の一つである。</p> <p>こういう考え方もあって、少人数でもあっても地域に密着した学校が残ることで、自分たちを見守ってくれる、あたたかい大人が近くにいる環境は子どもの成長にとってもプラスではないかと考えている。</p> <p>最後は学力が高いと言われる秋田県の事例で、そこは地域と学校が非常に密着しており、「学校が社会の錨 コミュニティの支点となる」と書かれている。教師たちが意図的に、学校を地域の人々の交流の場として機能をさせ</p>

ることが必要ではないかと校長にも話した。

少人数については、もちろんメリットもデメリットもあるが、ICTの活用や異学年の交流等、今はメリットが多いと感じている。地域の声があがらなければ、統合等の議論は始めないということではなく、今後、デメリットが多いと判断した時には教育委員会が主体となって動く必要があると思っている。今は少人数を生かした教育がどの学校でも展開されていると実感しているが、現在の状態を未来永劫、維持できる訳ではないので、人口推移や学校の状態等を注意深く見ていく旨を話した。

以上で、本日の審議は全て終了する。

これをもって、第12回定例教育委員会を終了する。